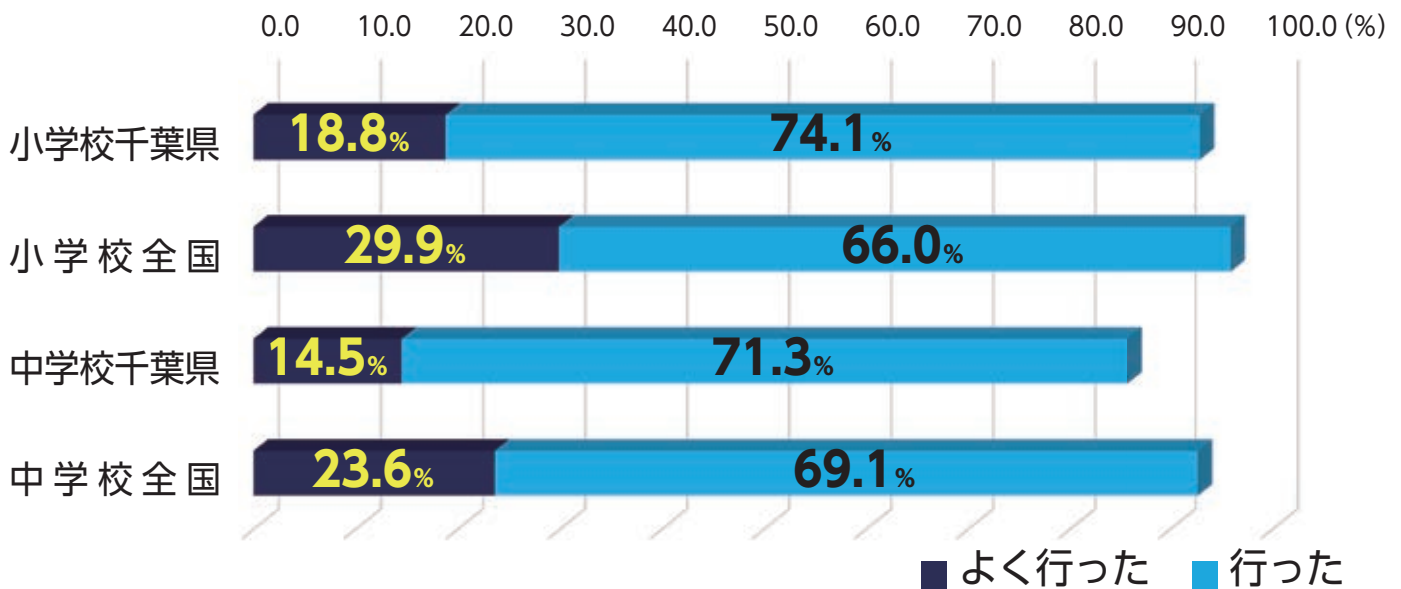


全国学力・学習状況調査の活用は進んでいますか？



令和4年度千葉県学力向上通信を発行してきましたが、先生方の学校ではどれくらい活用していただきましたか？

下のグラフは令和4年度の全国学力・学習状況調査の学校質問紙調査における「令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか」の回答結果です。



質問紙調査の回答結果は改善しつつありますが、まだまだ調査結果を活用できるチャンスがありそうですね！ページをめくって来年度から学校で活用できるヒントを見つけましょう！

※千葉県教育振興基本計画では「よく行った」の割合が100%に到達することを目標としています。

令和4年度の千葉県の結果は？

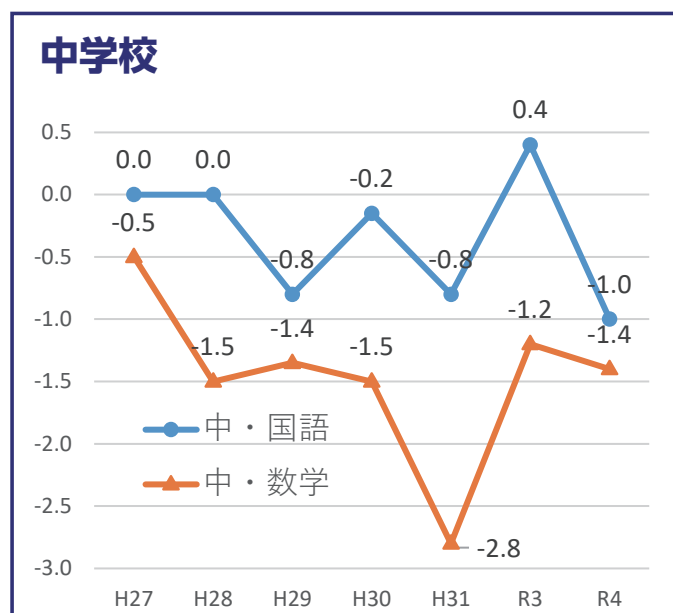
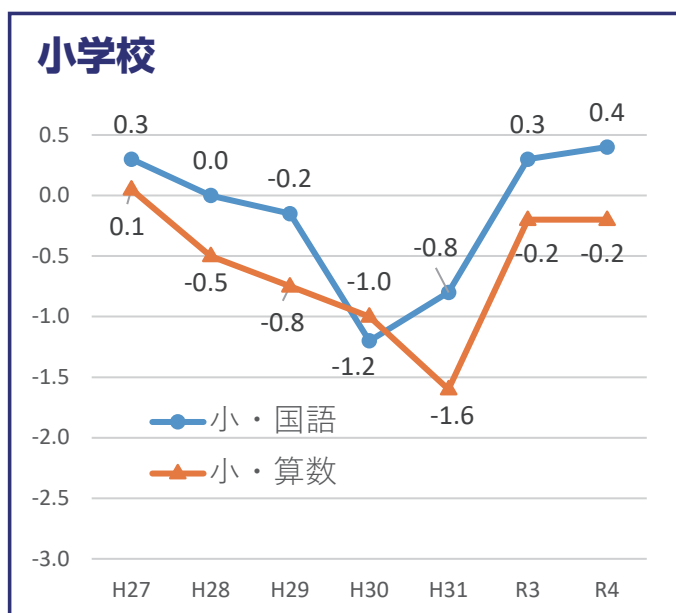
【千葉県の平均正答率】

※()の中は全国平均正答率を示しています。

小学校	千葉県 (全国)	中学校	千葉県 (全国)
国語	66 (65.6)	国語	68 (69.0)
算数	63 (63.2)	数学	50 (51.4)
理科	63 (63.3)	理科	48 (49.3)

【千葉県の平均正答率の推移】

※グラフは全国平均との差で示しています。



今年度の結果の数値だけを見るのではなく、経年変化に着目してみましょう!

先生方からのご質問にお答えします。



教務主任が職員に研修などを行っても、「今まで一回も6年生を担当していないので知らない。」という職員もいます。
調査を活用する中で、高学年だけでなく、どのように低学年の授業に生かしていけるのかということも知りたいです。

低学年からの学習の積み重ねが児童生徒の資質・能力の育成には重要です。どのような資質・能力を育成するのか、という視点から問題を解き、分析することで低学年でも活用できます。また、学習指導要領の具体的な理解を深めることにもつながります。

【参考p3へ】



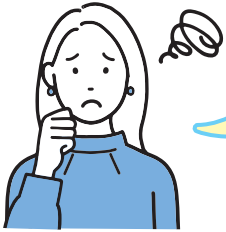


どのように授業で取り扱えば良いかわかりません。

問題作成の意図は、学習指導要領に則っていますので、実際に解いて分析をし、出題の意図を授業に反映させていくといいですね。

具体的な例として県教委HPや国政研HPの実践アイデア例を参考にしてみてください。

【参考p3へ】



長文読解や文章の要約が苦手な児童の指導の仕方や各教科の授業改善の仕方について知りたいです。

具体的に児童生徒が苦手としていることを把握していることは大切です。具体的な解決したい課題がある先生方は、課題別実践アイデア例などを参考にしてみてください。

【参考p6へ】



思考力・表現力を高める取組について知りたいです。

『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』を活用して単元の指導計画を作成することをオススメします。

【参考p7へ】



教科に関する調査が国語と算数・数学なので、自分の教科には関係ないと思ってしまいます。どうすればよいですか。

全ての教科の先生方にとって、質問紙調査の結果を活用することで、日頃の授業実践を振り返ることができます。結果分析で得られたことを自らの授業改善に生かしましょう。

【参考p8へ】



全国学力・学習状況調査の問題や調査結果から、授業改善や自校の児童生徒の実態を把握するためのヒントをたくさん見つけることができます！

先生方全員が担当教科に係わらず指導過程において、結果分析を指導に反映することで、日頃の教育活動の成果をアップさせることができます！

調査を実施しない学年での活用方法は？



国立教育政策研究所が作成している「報告書」から出題の趣旨を確認し、学習指導要領における領域・内容の記載から、児童生徒がどの学年で学習している内容なのかを認識しましょう。

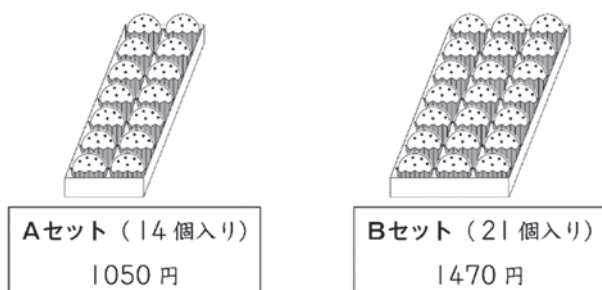
その上で、該当学年での授業改善に向けて、「報告書」に掲載されている資料などを活用することができます。



令和4年度 全国学力・学習状況調査「小学校・算数」より

1

カップケーキが、下のように売られています。1箱14個入りで1050円のAセットと、1箱21個入りで1470円のBセットがあります。



- (1) ゆうとさんは、Aセットを4箱買うことにしました。
Aセット4箱分の代金を求める式は、 1050×4 です。
 1050×4 を計算しましょう。

小学校6年生・中学校3年生の4月に調査を実施するので、それまでの学年において学習した内容が出題されます。

つまり、調査問題を活用した指導方法の改善は、調査を実施する学年以外で行うことができるのですね!

この問題からは、小学校3年生と4年生の授業における改善のヒントが読み取れますね!

設問(1)

趣旨 被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

【第3学年】 A 数と計算

(1) 整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ウ) 数の相対的な大きさについての理解を深めること。

【第3学年】 A 数と計算

(3) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。

【第4学年】 A 数と計算

(7) 計算に関して成り立つ性質に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 四則に関して成り立つ性質についての理解を深めること

(内容の取扱い)

(6) 内容の「A数と計算」の(7)のアの(ア)については、交換法則、結合法則、分配法則を扱うものとする。

問題文における場面の設定を、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善のためのモデルとして、授業展開の参考にすることもできます。



令和4年度 全国学力・学習状況調査「中学校・国語」より

1 川口さんは、国語の時間に、最近気になったことについてスピーチをする学習に取り組んでいます。川口さんは、動画に自分のスピーチを記録し、それを田中さんに見せて発言をもらっています。次の「川口さんのスピーチ」と「二人の会話の一部」を読んで、あとの問いに答えなさい。

【川口さんのスピーチ】

最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。その変化は、学校での学習にも表れていると思います。例えば、授業でインターネットを活用する機会が増えました。特に、オンラインで離れた場所にいる人と会話することもできて、その便利さを実感しています。一方で、相手と直接会っていないので、やりとりをスムーズに行いにくいという面もあるのではないかと考えています。

先日、総合的な学習の時間で、離れた場所にいる施設の方にオンラインでインタビュをしました。私は、画面を通してやりとりをしているという状況に気を取られて、相手に必要最小限のことを伝えるだけで精一杯になってしまいました。そのため、相手の反応を踏まえたやりとりをすることができていないと感じました。後日、そのことを友達に話したところ、「私は、相手の言ったことに対して相づちを打つように気を付けていました。」と話してくれました。

この言葉聞いてはっとしました。オンラインであっても、相手と話したことに相づちを打ったり、相手の話を受けてさらに質問をしたりするように意識することが大事だったのです。これからは、オンラインで人と話すときにも、このことに気を付けて、相手とのやりとりをスムーズに行えるようにしたいと思います。

【二人の会話の一部】

田中 ここまで動画を止めてもらえますか。「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。」という部分は、聞き手を引き付けるために、呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみました。どうでしょうか。「やりとりをスムーズに行いにくい」という部分は、私も同じように感じたことがあり、この後のスピーチの内容に興味をもつことができましたのでよいと思います。

川口 ありがとうございます。

田中 オンラインでインタビュをしたことを入れてみました。どうでしょうか。

川口 身近な内容で共感できました。始めに話したこととつながっている点が良いと思います。

田中 川口さんが伝えたい内容は分かりました。ただ、スピーチの冒頭から同じ調子で話しているの、言葉の抑揚や強調、問の取り方などの話し方を工夫してみてください。例えば、「オンラインで離れた場所にいる人と会話すること」という部分は、伝えたい内容に関係することなので、聞き手に関心をもってもらうために、ゆっくり大きな声で話すときよいのではないのでしょうか。

川口 なるほど。他の部分も話し方を工夫してみます。



普段の授業の中で、聞き手を意識させるとともに、自分の考えが分かりやすく伝わるように工夫させるといった対話的な学習に取り組んでいくことが重要なのだと気付きますね!



どのように授業改善をしていますか？

～授業実践アイデア例を活用しましょう！～



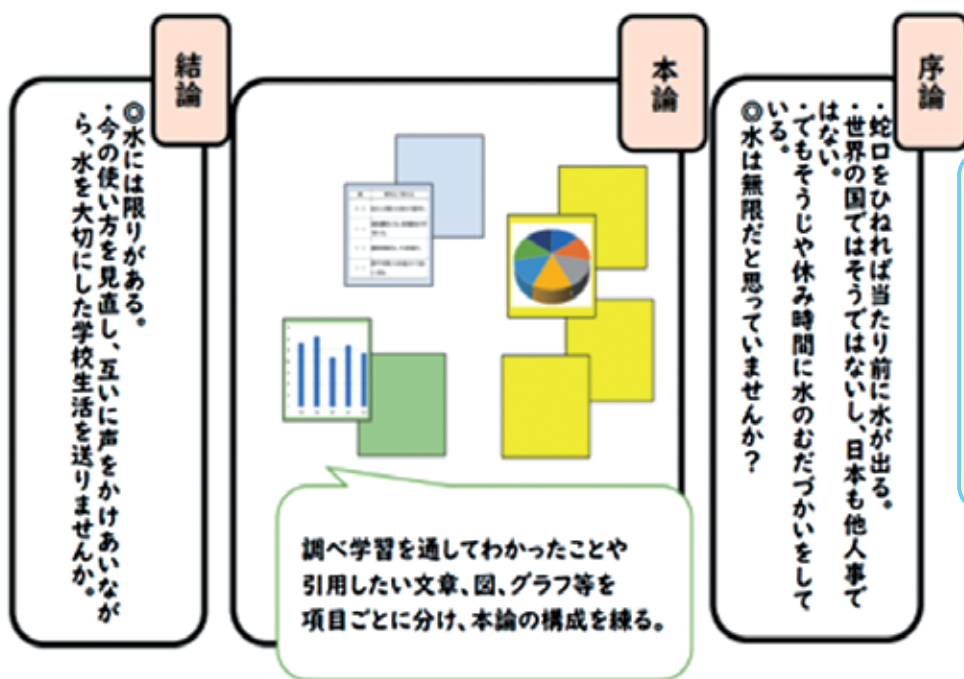
全国学力・学習状況調査の問題や結果などを活用した授業改善に当たり、実践アイデア例を参考にしてみてください。

単元全体を見通した授業改善には「授業実践アイデア例」を、単元の中で一部、新たな取組などを取り入れたい場合は「課題別実践アイデア例」をそれぞれ参考にしてみましょう。

【参考例】小学校・国語

自分で取り組む 構成の検討／考えの形成、記述

第3時 ●「序論・本論・結論」の構成について考える。



使用ツール

- プレゼンテーションアプリ
- ホワイトボードアプリ
- 文書作成アプリ等

例えば、序論では「課題提起」、本論では、「意見とその根拠、具体的な提案」、結論は「まとめの意見」を伝えます。
調べたことを付箋にして、構成や論の展開を練りましょう。



授業改善のポイント プレゼンテーションアプリや付箋等による共有ソフトを活用した構成の検討

提案を相手にとって納得できるものにするために、本論で扱う資料や自分の考えを構成表にわかりやすくまとめる活動を行います。

ICTを用いれば、文章の展開や論の順序の工夫等について共有できます。

構成には複数の種類があります。「序論-本論-結論」でも、統括する内容の位置により、「頭括型(序論で統括)」、「尾括型(結論で統括)」、「双括型(序論、結論で統括)」があります。

児童の思いや考えに応じて、どの構成がより相手に伝わるかを考えさせることも有効です。

授業実践アイデア例&課題別実践アイデア例はこちらから！

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/bunseki-katuyou/bunseki-katuyou-jugyoukaizen/bunseki-katuyou-jugyoukaizen.html>



授業改善のワンポイントアドバイス!

～授業をちょっと変えるなら課題別実践アイデア例がオススメ～

【課題】

【数学】「全国学力・学習状況調査」の知識・技能の観点の正答率が低い

手立て 習得した知識・技能を活用したり、理解を深めたりする場面を設定する



POINT①

基礎的な概念や原理・法則まで理解する。

- 問題の出し方を変えたり、説明させたり、本質を問うような問題を入れて評価するように心がける。
- ➔ $2x=x+3$ を解くだけなら、多くの生徒が解けるが、右の全国学力・学習状況調査平成28年度の問題は、正答率が3割程度であった。



POINT②

既習事項を活用して問題を解決する。

- 例えば、「素因数分解」の学習で、その後の学習でもさまざまな場面で活用する場面を設定する。
- ➔ 素数の積に着目することは、「正の数の平方根」の学習において、例えば $\sqrt{50}$ を $\sqrt{5^2 \times 2}$ とみて $5\sqrt{2}$ とすることや、数の平方根を含む式の計算を工夫して行う上で大切になってくる。



POINT③

日常生活と関連させて、数学のよさを実感させる。

- 「見いだす」場面で、日常生活の中や身近な素材から課題を設定する。
- 習得した知識と実際の場面を結ぶような場面を設定する。
- 生活の中で数学が生かされている事象を紹介する。
例: カードの暗号化、新幹線の座席、SNSのトレンド、等

(2) 一次方程式 $2x = x + 3$ の左辺と右辺それぞれの x に 3 を代入すると、次のような計算をすることができます。

$$\begin{array}{l} 2x = x + 3 \text{ について、} \\ x = 3 \text{ のとき、} \\ \text{(左辺)} = 2 \times 3 \qquad \text{(右辺)} = 3 + 3 \\ \qquad \qquad \qquad = 6 \qquad \qquad \qquad = 6 \end{array}$$

このとき、この方程式の解についていえることを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア この方程式の解は6である。
- イ この方程式の解は3である。
- ウ この方程式の解は3と6である。
- エ この方程式の解は3でも6でもない。

「素因数分解」は、公約数を見つけるときにも便利だね。



「文字を用いた式」や「簡単な多項式」の学習でも生かすことができそうだ。

日常生活でも数学が役に立っている場面がたくさんありそうだ。



課題別実践アイデア例 ～ホームページ掲載のタイトル(一部)～

国語「立場を明確にした計画的な話し合いから自分の考えをまとめる」
総合的な学習の時間「教科等横断的デザインフォームをつくる」
国語「資料を活用する引用の仕方」

他教科でも
活用できます!

思考し、表現する力を高めるには？

～実践モデルプログラムを活用した探究的な授業を行いましょ～



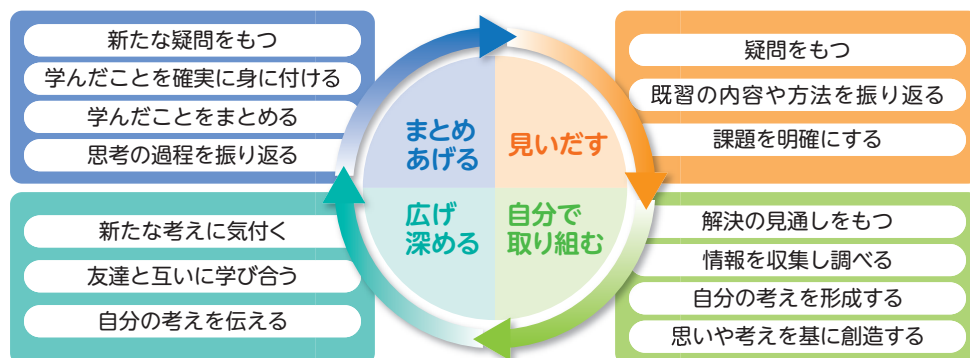
児童生徒の思考力や表現力を高めるには、児童生徒が主体的に課題解決に取り組む探究的な学習を行っていくことが大切です。

『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』を活用した授業改善を行うことで、探究的な授業へと変わっていきます。

また、授業(あるいは単元)の中で3つのポイントを押さえることで、より探究的な学習を進めていくことができます！



「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



探究的な学習を進めていくためのポイント！

ポイント① 学習課題を児童生徒自身が立てられようにする！

- ▶ 特に単元の最初で立てる問いについては、児童生徒が疑問に思い、調べたり学習したりしたいという意欲が持てるようにしましょう。
- ▶ 資料から分かること、体験活動で学んだこと、前の単元で学んで疑問に思ったことなど、児童生徒が「自分事」として設定できる課題を導き出すための導入を工夫しましょう。

ポイント② 課題解決に向けての見通しを児童生徒自身が立てられようにする！

- ▶ 既習事項などから、課題を解決するための仮説を立てる時間を設定しましょう。
- ▶ 仮説の根拠を具体的に述べられるようにしていくことが大切です。
- ▶ 対話的な活動を行って、本当にできる?と考え直す時間を設定することで考えが深まります。

ポイント③ 課題解決に向けた学習の振り返りを行う！

- ▶ 児童生徒自身が学習してきたことについて、振り返る時間を設定しましょう。
- ▶ 「どのような取組をしたことで、どのようなことを学んだのか?」「課題に対する自分の考えをまとめたか?」といったポイントを押さえて自分の言葉で振り返りを記入しましょう。

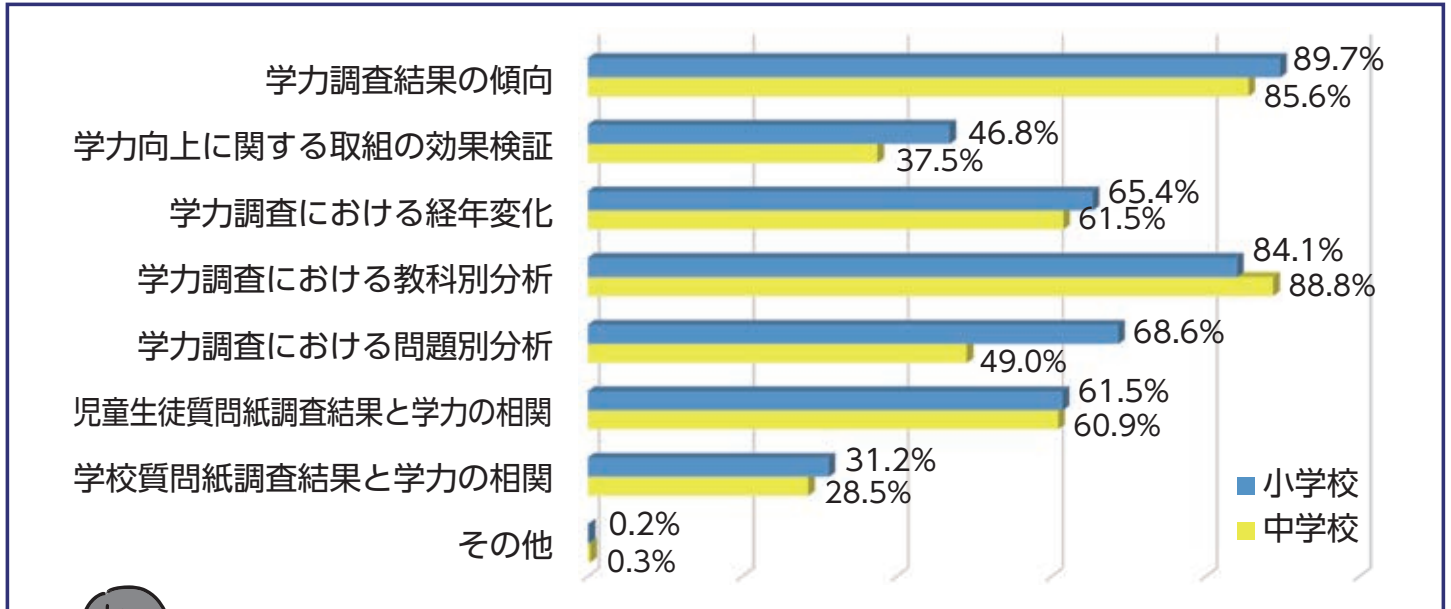
「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムについてはこちら！

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/zissenmoderu/moderupuro.html>



質問紙調査を活用しましょう!

下のグラフは令和4年度に実施した「ちばっ子『学力向上』総合プラン」に関するアンケートで「**全国学力・学習状況調査の結果について、どのようなことを分析していますか**」という問いに対する回答結果です。



教科別や調査結果の傾向などと比べると、質問紙調査の活用や学力向上に関する取組の効果検証としての活用はあまり行われていないようです。



児童生徒の実態の一面を見取り、学力向上に向けて仮説を立てることなどによって、質問紙調査も有効に活用できます。

このような取組はどうですか?

- ① 研究主題と関連する質問紙調査の内容を確認する。
※各学校で設定している**研究主題と関連する質問項目を児童生徒質問紙、学校質問紙の両方から選んでみましょう。**
(例)「ICT活用」「対話的な学習の充実」
- ② 児童生徒に向けては…(児童生徒質問紙調査の内容)
→**学期末や単元末などの振り返りで質問項目に追加**して年間の推移を見取る。
先生方に向けては…(学校質問紙調査の内容)
→**先生方の学期の振り返り**でその推移を見取る。
- ③ **確認テストなどの結果とアンケート結果について相関関係等を調べる**ことで、取組状況と**学力向上に対する効果を検証**することが可能です。

3か年計画などで研究主題を設定している場合は、全国学力・学習状況調査を活用して、学力だけでなく児童生徒の取組と学力の相関などの経年変化も見取ることができますね。



学力が向上した取組の4つの共通点!

学力向上推進体制

ポイント▶ 学力向上部会を組織として位置づける

- ▶ 全国学力・学習状況調査の問題や自校の解答状況をチームで分析
- ▶ 全教員が一斉に全国学力・学習状況調査を実際に解いてみる時間を確保
- ▶ ミドルリーダーや管理職による教科部会の参観及び指導・助言
- ▶ 中学校区で、意見交換会(オンライン会議を有効活用)を実施
- ▶ 少人数指導や教科担任の適正配置

「チーム学校」で協力して取り組むことが大切ですね!



授業改善の手立て

ポイント▶ 全学年・全教科同一歩調の共通理解

- ▶ 視覚的に意識できる「授業改善チェックシート」作成
- ▶ ベテラン・中堅の技術を若手に継承するメンター制の教材研究・授業研究
- ▶ PDCAサイクルを回しやすい「具体的な研究主題」の設定
- ▶ ICTの効果的な活用方法を検討する校内研修
- ▶ 若手からベテランまで徹底すべき「学校の実態に応じた学習スタンダード(規律)」の確立

学力が伸びる教育課程の工夫

ポイント▶ 子供が学びやすい環境を整える

- ▶ 全国学力・学習状況調査結果や学校評価アンケートの結果を反映した教育課程編成
- ▶ 各学年(縦)と各教科(横)の単元計画のすり合わせと重点指導項目の共通確認
- ▶ 朝ドリルや朝読書などのモジュールを活用した学習習慣の確立
- ▶ 年間行事計画への「学力向上週間(月間)」の位置付け
- ▶ 教材研究の時間を確保するための行事の数及び内容の精選

家庭・地域との連携

ポイント▶ 学校外の人的資源・物的資源を有効活用

- ▶ 家庭学習だよりの発行(目標時間や家庭学習の方法を周知)
- ▶ 自主学習ノートの活用と優良ノートの表彰
- ▶ 全国学力・学習状況調査から得られた課題やその改善策を保護者会、学校だよりで情報共有
- ▶ 生活習慣チェックシートによる自己評価の促進
- ▶ 地域から「読み聞かせ」「学習支援員」「ICT補助員」等のボランティアを募集

上記は千葉県内で実際に学力向上の成果をあげている小、中学校の実践例です。「チーム学校」として学力向上に取り組むことで大きな効果が見込めます。

大切なことは、効果の検証方法を数値化するなどして、事前に決めておくことです。実践するだけで満足せず、ねらいが達成できたかを必ず検証しましょう。

県内中学校での取組 ～成田市立玉造中学校～

改善目標	改善方策	検証方法
<p>【推進体制の構築】 学習指導要領をしっかりと理解し、授業を構築することができるように研修を行っている。</p> <p>【授業改善】 生徒の困り感をくみ取り、授業改善に生かすサイクルを構築する。</p> <p>【教育課程の編成】 朝の10分間の学習時間を充実した取組にする。</p> <p>【家庭の協力】 全校で取り組んでいる「1日1ページの家庭学習」について質の向上を図る。</p>	<p>【推進体制の構築】 全校で2週間「授業力アップ相互研修」を位置づけ、相互に授業参観を行い、研修に努める。後期に授業力に不安のある教員を対象に他校のベテラン教員の授業参観または指導を仰ぐフォローアップ研修を行う。</p> <p>【授業改善】 前後期の2回、生徒を対象とした授業アンケートを行い、評価のフィードバックを行う。</p> <p>【教育課程の編成】 毎月の学習指導部会議で各学年での進捗状況を確認する。その情報を基に、各教科担当へ教材の依頼を行う。</p> <p>【家庭の協力】 研究主任を中心に、家庭学習への取組について検討委員会を立ち上げる。来年度の実施に向け、3学期に移行期間を設け、次年度の指導部提案で提案する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者・生徒・教職員向けの学校運営評価アンケートを行い、各項目の回答から満足度や他者の評価を検証する。 ●次年度の教育課程編成のためのアンケートを教職員に行い、各取組の継続の可否や内容について意見を募り、行事検討委員会で評価を行い、次年度の計画に反映させる。 ●家庭学習については、学区での検討課題の一つにもなっているので、ブロック研修会や学区研修会の際に、各校の取組とすり合わせることで検証・評価を行う。

4つの取組の項目ごとに柱建てが整理されていて、学力向上に向けての取組が明確ですね！



県内小学校での取組 ～館山市立九重小学校～

改善目標	改善方策	検証方法
<ul style="list-style-type: none"> ●主体的・対話的で深い学びにつなげることで、どの子にも「わかる」「できる」が実感できる授業づくりを行っている。 	<p>【授業改善】 「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を活用した授業プログラムを構築し、学力向上への基礎を作る。</p> <p>【学習の個別化】 基礎基本の定着を図るために、朝読書や「ちばっ子チャレンジ100」など朝学習を充実させる。児童が自分に必要な学習や単元などを自分で選び、学習に取り組む。</p> <p>【「わかる」「できる」から表現へ】 どの教科でも、ユニバーサルデザインの視点を生かして、学びを工夫する。知識・理解が深まることで、「表現したい」「伝えたい」という思いを強くもつ子供を育成していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●1人1実践の授業展開により検証を行う。協議会で子供たちの姿が目指すものになっているかを相互に評価する。 ●日々の学習の記録をファイリングすることで学びの足跡を残す。児童自身がどのような学びができたかを確認できるようにすることを重要視する。 ●活動報告の場を設定することで、学習の意欲向上につなげる。他者からの肯定的な評価が次の学びへの意欲につながり、スパイラル化された学びを構築する。学習者としての発言や発表内容をもって評価する。

児童の学習に対する主体性を引き出そうとする学校の取組が具体的になっていますね！



全国学力・学習状況調査を活用した学力向上のための取組についてのチェックシート例



全国学力・学習状況調査を活用した学力向上の取組を進めるためのチェックシートを例示しますので、各学校の実態に応じて活用してください。

No.	チェック項目	✓
管理職としての取組		
1	調査結果の周知や改善の取組を学校全体で行うことができるような体制を整えた。	
2	教務主任や研究主任等と連携し、調査結果を職員全体で確認させ、課題を明確にした。	
3	教育計画の作成に当たり、これまでの調査内容や結果を参考にした。	
4	教科に関する調査と質問紙の調査結果を学校経営の指針や校内研修の主題検討の参考にした。	
5	保護者や地域の学校教育活動への協力・連携を進めるため、調査結果の公表を行った。	
6	保護者や地域と協力・連携して、調査結果を活用した取組を行った。	
教務主任、研究主任等としての取組		
7	文部科学省からの結果データを速やかにダウンロードし、保管している。	
8	分析ツールを総セWebサイトからダウンロードし、4種類の分析シートを作成した。	
9	印刷した分析シートを、活用しやすいように保管している。	
10	教科に関する調査の自校の結果について、職員全体に周知した。	
11	質問紙調査の自校の結果について、職員全体に周知した。	
12	報告書や授業アイデア例など、文部科学省からの資料を職員全体に周知した。	
13	調査や結果に関連するデータをファイルし、職員全体が活用できるようにした。	
14	校内研修等で、分析シートを活用して職員全体で分析できるようにした。	
全職員に関わる取組		
15	教科に関する調査の問題を解き、内容と出題の意図を確認した。	
16	調査後に、児童生徒の解答を確認または採点し、実態を把握した。	
17	校内研修等で、問題及び解説資料を基に指導改善のための話し合いを行った。(結果提供前)	
18	教科に関する調査の自校の結果を確認した。	
19	質問紙調査の内容と自校の結果を確認した。	
20	S-P表を活用し、実態に即した指導方法の検討をした。	
21	分析シートの活用の仕方について、「令和4年度 学力向上の手引き」を参考にした。	
22	「教科・質問紙分析シート」を活用して分析し、改善方を検討した。	
23	「経年分析シート」を活用して分析し、改善方を検討した。	
24	「誤答分析シート」を活用して分析し、改善方を検討した。	
25	「クロス集計シート」を活用して分析し、改善方を検討した。	
26	教科指導について関係する学年間や教科担当で課題を共有した。	
27	教科指導について検討した改善方を基に授業を実践した。	
28	質問紙調査の結果を基に課題を検討し、授業改善の方策を検討した。	
29	質問紙調査の結果を基に課題を検討し、学級経営の改善方を検討した。	
30	検討した改善方を基にした授業実践を評価し、改善点を話し合った。	
31	分析シートを基に学校全体の改善方策と実践について振り返り、次年度の取組に生かした。	
32	過去の調査問題を活用し、児童生徒の実態把握を行った。	
33	調査問題を、校内研修や授業づくり、または授業を行う中で活用している。	
34	調査問題を、教材やテスト、児童生徒への課題作成の参考に使っている。	
35	「令和4年度 学力向上の手引き」を指導改善の参考にした。	
36	「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を基に指導改善を行った。	
37	「学力向上通信 COMPASS」を指導改善の参考にした。	

総合教育センターホームページに掲載されている「学力向上の手引き」も併せて御活用ください!

